

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 8 期第 5 回相模原市緑区区民会議		
事務局 (担当課)		緑区役所区政策課 電話 0 4 2 - 7 7 5 - 8 8 0 2 (直通)		
開催日時		令和 7 年 6 月 1 7 日 (火) 午前 1 0 時～ 1 1 時 4 0 分		
開催場所		緑区合同庁舎 4 階 集団指導室		
出席者	委 員	1 6 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	6 人 (副区長、他 5 人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 議題 緑区基本計画の進捗状況について 3 その他 4 閉会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。（◎は会長の発言 ○は委員の発言 ●は事務局の発言）

1 開会

緑区役所区政策課長の進行により、会議の成立要件を満たしている旨の報告、会議公開の確認を行った。また、傍聴希望者がいない旨の報告を行った。

2 議題

牧瀬会長の進行により、議事が進められた。

緑区基本計画の進捗状況について

事務局から資料に基づき、今回の審議内容である取組の方向性Ⅱ「『認め合う・支え合う』まちづくり」の内容について説明を行ったのち、3班に分かれて意見交換を行った。

3班に分かれて、取組目標Ⅱに関連する、地域における取組及び課題の抽出ならびに対応方策の検討にかかる意見交換を行った。

<各班の主な意見>

【A班】発表者：池田（孝）委員

○医療体制の充実には交通手段の充実が必要である。高齢者や障害のある方など支援の必要な方々のために、リフト付きバスの充実が必要との意見も出た。

○オンライン診療をやっているから医療体制が充実しているというわけではなく、利用率など、その結果何が必要か見極めることが重要。

○健康であり続けるための支援については、山や川を活用したらどうかとの意見が出た。緑区全体で交流するにも、橋本地域と旧4町の特色は全く別物であるため、「緑区」というひと括りで捉えて良いのか、第9期では検討する必要がある。

○行政で行うべきものを地域に任せすぎているのではないか。お金のかけ方は問題ないのかという行政への意見も出た。

○連携した見守り体制の充実については、担い手不足と言うものの、見守り体制（団体数）はそれなりにある。団体同士の横の繋がりが希薄であることが課題。横で繋がるシステムを行政が構築すれば、担い手不足ではなくなるのでは。

○集いの場の充実が橋本地域では一定程度評価できるが、世代間の交流の場は課題。昔の遊びを高齢者から教えてもらうような機会があっても単発となっている。この課題の解消法の一つとして、公園の活用方法を見直すのはどうか。近年公園の使い方に様々な制限がかけられていることも世代間交流が進まない一因ではないか。

【B班】発表者：畑野委員

○医療についての課題は、医療機関の不足、高齢者へのオンライン診療の是非、診療所の統廃合などがあり、それに付随して交通機関の少なさが問題である。

○高齢化が進む中山間地域において、公共交通機関の不足により自ら医療を受けに行けない人たちはどうしたら良いのか。コミュニティバスや行政のサポートが必要ではないか。

○自治会単位での健康診断の実施をしてみるのも良いのではないか。

○見守り体制の不足については、子どもへの見守りはある一方、高齢者に対しては少ない。

○地域でのコミュニティについては、自治体加入率の低下が問題である。加入者が少ないことに加え、会合に家長（高齢者）が出ており、若い世代の参加が足りないのも問題。対応策として、地域のお祭りの活発化、体育祭の復活などで盛り上げていくのはどうか。

【C班】発表者：高村委員

○畑から宅地へ地域は変化したが、近所の人を知らないという実情が増えてきたのが寂しい。大人と子どもが交流する場を作りたいという思いはあるが、今は地域の大人と子どもが気軽に会話できず、できないのが現状。

○かつては小学校が地域の賑わいの中心だったが、統廃合が進み、地域の繋がりが希薄になった。施設の老朽化も進んでいるが、修復もままならない状況。

○中山間地域は小学生が少ない。若い世代を含む人口減少により交通も医療も全てが整わない状況が続いており、近隣の人々が繋がるための仕掛けや知恵が欲しい。

○藤野地域の国道には信号が2つしかない。子どもが安全に安心して暮らせるためには、歩道や横断歩道の整備も考えなければならないのではないか。

○自治会やPTAは唯一地域が繋がる場だが、かつては子ども会もあり、地域のお父さんお母さんに関われた。現在は役員を嫌がって加入しない親が多く、お祭りなどの子どもにとって大切な環境を無くしてしまっている一つの要因とも言えるのではないか。若い世代の課題として、巻き込める環境づくりをしていかなければならない。

○学校の先生も子どもたちを怒れない時代になっており、子どもたちにふるさとへの思いを醸成できるようなまちづくりをしなければと危機感を感じた。

◎牧瀬会長

「医療はどうか」「見守り体制」「地域コミュニティの衰退」が3グループに共通して挙がっていた。これらについて何ができるか、引き続き検討していきたい。

中山間地域に行くと、医療と公共交通機関の問題は共通している。今回は出てこなかったが、雇用と教育もよく問題となる。相模原市は都内にも比較的出やすいため、今回は出なかったものと思う。

共通項の一つのヒントとして「世代間交流」「連携」「繋がる仕掛け」がある。これらは行政の役割かと思うが、今後検討していきたい。また、行政資源は無限ではないため、優先順位もあわせて考えていく必要がある。

挨拶がないとの話が出ていたが、長野県佐久市は「あいさつ条例」がある。そういうものもありかもしれない。

2030年から自動運転が始まる。価格が下がってくれば導入の可能性もあるため、技術革新では対応できない部分を区民会議で考えていきたい。

3 その他

事務局より、第7期で検討を進めた「若者の区民会議」「SNSを活用した情報発信」について報告を行った。「若者の区民会議」については、いただいた意見を踏まえ、若者の意見を区政に反映すべき具体的な事案があった際に高校生に限定せず実施することとし、「SNSを活用した情報発信」については、情報や魅力の発信を所管している地域振興課に引き継ぎ、継続実施をお願いしている旨報告した。

また、猿渡委員より、橋本地区で発行されている「めぐり報」の紹介とともに、各地域の情報誌を持ち寄って紹介し合う取組の提案があった。

次回の区民会議は、日程が決まり次第ご連絡させていただく。

4 閉会

相模原市緑区区民会議委員出欠席名簿

(順不同・敬称略)

区 分	氏 名	所 属 団 体 等	出欠席
まちづくり会議	○森 誠壽	橋本地区まちづくり会議	欠席
	佐藤 金男	大沢地区まちづくり会議	出席
	林 和博	城山地区まちづくり会議	出席
	関戸 仁	津久井地区まちづくり会議	出席
	河津 暁	相模湖地区まちづくり会議	欠席
	宮野善三郎	藤野地区まちづくり会議	出席
関係団体	石井 敏夫	相模原市２２地区社会福祉協議会緑区連絡会	出席
	立川 直子	相模原市民生委員児童委員協議会	出席
	佐藤 稔	相模原市ＰＴＡ連絡協議会	出席
	池田 孝夫	相模原商工会議所	出席
	森下 裕司	津久井地域商工会連絡協議会	欠席
	原 幹朗	公益社団法人相模原市観光協会	出席
	沼尾 将輝	公益社団法人相模原青年会議所	欠席
	畑野 栄久	公益社団法人津久井青年会議所	出席
	高橋 靖典	一般社団法人藤野エリアマネジメント	出席
	山本 祐子	特定非営利活動法人ふじの里山くらぶ	欠席
	前山 善憲	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら	欠席
学識経験者	◎牧瀬 稔	関東学院大学法学部 教授	出席
	池田 寛二	法政大学社会学部 名誉教授	欠席
区民	猿渡 達明	公募委員	出席
	高村 るみ	公募委員	出席
	山下友梨子	公募委員	欠席
民間事業者	奥平 麻由	相模湖リゾート株式会社	出席
	櫛見 大	東日本旅客鉄道株式会社	出席

◎は会長、○は副会長